

股関節の痛みと人工股関節手術

股関節は丸い大腿骨頭という大腿骨の先端部分と、丸くくぼんだ臼蓋とよばれる骨盤の骨の一部（右図）が組み合わされてできており、大腿骨頭と臼蓋の表面はなめらかな関節軟骨に覆われています。軟骨はクッションと運動時の滑りをよくする役割を持っているため、関節は痛むこ



となく滑らかに動くことができます。

股関節に障害が起こると関節軟骨は劣化して磨耗（すり減って無くなる事）してしまい、関節表面がゴツゴツして滑らかさが失われます（左図）。結果として関節に炎症が生じて痛みが起き、関節の動きが徐々に硬くなります。このような状態を**変形性股関節症**といいます。



変形性股関節症の症状

初期には股関節周囲の違和感から始まり、進行すると股関節周囲の痛みや動きの制限などがでます

✓ 痛みの場所は？

脚の付け根の痛み、お尻の痛み、骨盤の痛み、太ももや膝の痛みなど



✓ どのような痛み？

- 立ち上がりや階段昇降といった特定の動きで痛い
- 運動すると痛い（動作時痛）
- 歩くと痛い（歩行時痛）
- 何もしていない時にも痛い（安静時痛）
- 夜寝ていても痛い（夜間痛）



✓ 動きの制限と歩き方の変化

- 関節が動きづらくなるため、靴下履きや爪切りが大変になる
- 歩くときに揺れ、足を引きずるようになる

✓ 股関節の治療を受ける時期

股関節の痛みから解放されたいと思った時

具体的な例

- 夜、痛みで目が覚める
- 短時間の家事や歩行でも痛い
- 歩くときに足を引きずる
- 足の長さが左右で違う

- 靴下が履きづらくなってきた

✓ 股関節疾患の治療方法

治療方法には手術と手術以外の方法（保存治療）があります。

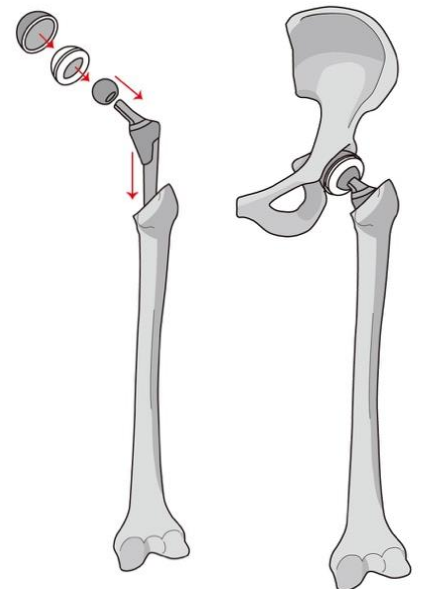
◇ 人工関節手術（変形が進行した状態への治療）

✓ 人工股関節置換術とはどのような手術か？

- 変形の強い関節を取り除き、人工の関節に置き換える手術
- 痛みをとり、機能回復を高めるのに適した手術

✓ 人工股関節置換術が適応となる状態

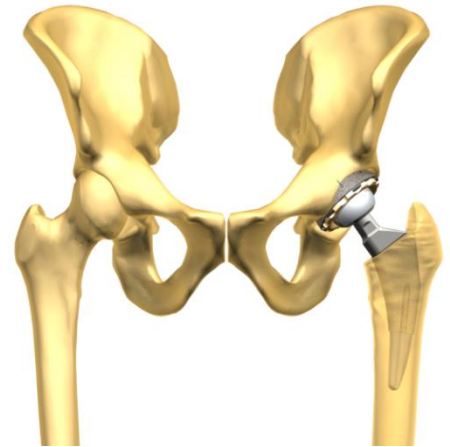
- 股関節の痛みや機能障害がひどく、仕事や日常生活が制限される
- 保存治療では症状が改善しない



- 人工関節以外の手術の適応とならない

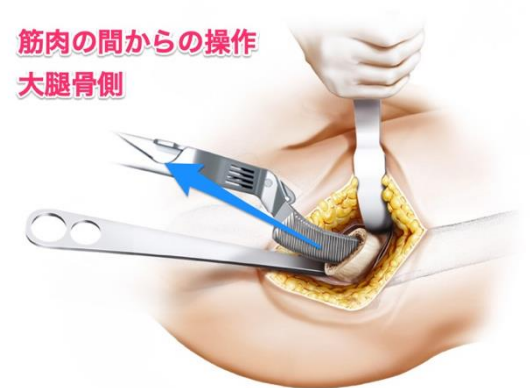
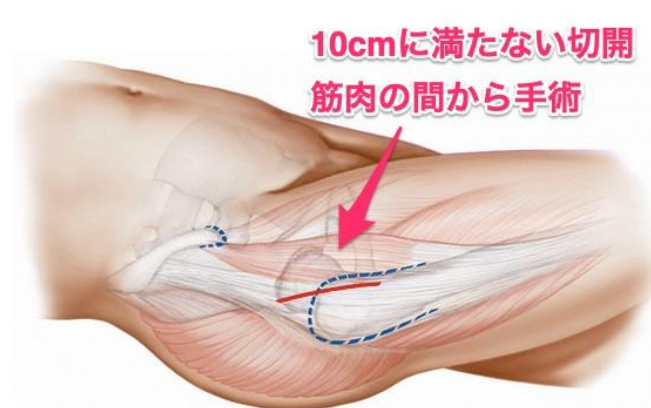
✓ 人工股関節置換術による効果

- 股関節の痛みが非常に楽になる
- 変形や痛みの為に制限されていた股関節の動きが改善する
- 筋力と動きが改善すると歩き方が綺麗になる
- 他の関節（膝・足・腰など）への負担が軽くなる



✓ 当院で行う人工股関節手術

- 正確なインプラント設置を目的とした仰臥位での手術
- 最小侵襲手技（10cm以下の皮膚切開で筋肉や腱を切離さない）
- 前外側進入（中殿筋と大腿筋膜張筋の間から筋肉を切らない手術）



- 骨セメントを使用しないノンセメント型人工関節を使用

- 摺動面は高架橋ポリエチレンライナーとセラミックス骨頭を使用
- 術後早期から歩行訓練度のリハビリを開始する
- 入院期間は数日から 1-2 週間